

[野菜部門 令和5年度 参考となる研究成果]

事項名	メロンの炭腐病に対するカーバムナトリウム塩液剤（キルパー）による防除法		
ねらい	これまで登録薬剤がなかったメロンの炭腐病に対し、令和元年及び2年にカーバムナトリウム塩液剤（キルパー）による防除効果を検討したところ、安定した効果が認められ、本剤が適用拡大されたので、参考に供する。		
内容	<p>1 カーバムナトリウム塩液剤（キルパー）による防除法（図1）</p> <p>(1) 施肥・耕起後、畝立て・灌水チューブ設置・マルチによる密閉を行う。</p> <p>(2) 原液として80L/10aのキルパーを、水で100倍希釈程度になるように液肥混入器を使うか、同希釈液をタンク内で調製して動力ポンプを使って灌水チューブに流す。</p> <p>(3) 直ちに、水のみその後灌水（800～1,600L）でチューブ内を洗浄する。</p> <p>(4) 農薬登録上の使用時期を厳守し、定植はマルチ密閉期間を終えて植え穴を空けた後、ガスが十分に抜けたことを確認してから実施する。</p> <p>2 カーバムナトリウム塩液剤の農薬登録内容</p> <p>(1) 薬剤名等</p> <p>ア 一般名：カーバムナトリウム塩液剤</p> <p>イ 商品名：キルパー</p> <p>ウ 有効成分：カーバムナトリウム塩 33.0%（殺線虫剤、IRAC：8F）</p> <p>エ 人畜毒性：普通物</p> <p>(2) 使用基準</p> <p>ア 登録年月：令和4年12月7日</p> <p>イ 適用病害：メロン炭腐病</p> <p>ウ 使用量：原液として80L/10a</p> <p>エ 使用方法：あらかじめ被覆した内で、所定量の薬液を水で希釈し土壌表面に散布又は灌水する。</p> <p>オ 使用時期：播種又は定植の15日前まで</p> <p>カ 本剤の使用回数：1回</p> <p>キ 成分総使用回数：1回</p>		
期待される効果	メロンの炭腐病の被害が軽減され、安定生産に寄与する。		
利用上の注意事項	<p>1 本資料は令和4年12月26日現在の農薬登録内容に基づいて作成した。</p> <p>2 農薬を使用する場合は、必ず最新の農薬登録内容を確認して使用者の責任の下に使用すること。「農薬情報」(https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/)、「農薬登録情報提供システム」(https://pesticide.maff.go.jp/)</p> <p>3 水産動植物に影響を及ぼさないよう、薬液や使用器具・容器等の洗浄水が河川、湖沼及び海域等に流入しないよう注意して使用する。また、養殖池周辺での使用は避ける。</p> <p>4 薬剤の希釈作業、灌水装置取扱い及び土壌くん蒸の際は、保護眼鏡、農薬用マスク、不浸透性手袋、ゴム長靴、長ズボン・長袖の作業衣などを着用するとともに、ガスに暴露しないよう風向き等を十分に配慮し、かぶれやすい体質の人は特に注意する。</p> <p>5 土壌が乾燥しているとガスが抜けやすく、逆に過湿ではガス化しにくくなるので、土を軽く握って放すと割れ目ができる程度の水分含量に調整する。</p>		
問合せ先 (電話番号)	農林総合研究所 病害虫管理部 (0172-52-4314)	対象地域 及び経営体	県内全域のメロン作付経営体
発表文献等	令和元～2年度 農林総合研究所試験成績概要集 北日本病害虫研究会報 第73号		

【根拠となった主要な試験結果】

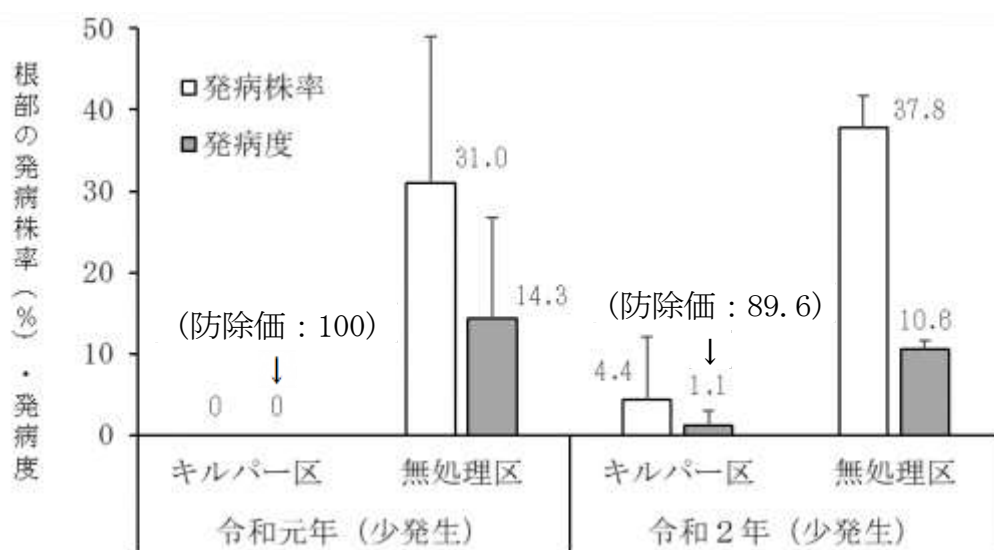


図1 メロンの炭腐病に対するキルパーの防除効果 (令和元年、2年 青森農総研)

- (注) 1 試験場所：黒石市田中（農総研内人工汚染ビニールハウス）
 2 キルパー処理方法：原液として80L/10aを、地下水で100倍希釈程度になるように液肥混入器で調製し、マルチ被覆下の畝中央に設置した灌水チューブ（1本/畝肩幅135cm）を使って畝面に灌水
 3 令和元年試験：ハウス圃場への培養菌体混和 4月23日、キルパー灌水 4月23日、植え穴空け 5月22日（キルパー臭無し）、定植（タカミ） 6月2日、根部の発病調査 採取（9月11日）後に無加温ガラス室内で湿室状態に保持して9月25日に調査、区制 14株×3か所調査
 4 令和2年試験：ハウス圃場への培養菌体混和 4月13日、キルパー灌水 4月18日、植え穴空け 5月10日（キルパー臭無し）、定植（タカミ） 5月18日、根部の発病調査 採取（9月1日）後に無加温ガラス室内で湿室状態に保持して9月15日に調査、区制 15株×3か所調査

(参考資料) キルパー処理から定植までの一般的な目安

(令和4年 ZMクロッププロテクション(株)「キルパー技術資料」より一部改変)

日平均地温	被覆期間	被覆除去・ガス抜き期間	定植
25℃以上	7～10日間	3～5日間	処理10～15日後
15～25℃	10～15日間	5～10日間	処理15～25日後
10～15℃	15～21日間	10～20日間	処理25～41日後

(注) 秋冬期など平均地温が10℃以下の場合や重粘土質で土壌水分が高い場合などでは、被覆期間を延長するか、ガス抜き耕起を十分に行う。

参考価格：キルパー（1缶20L、14,090円）、原液として80L/10a使用で56,360円。